

都立大泉高等学校同窓会・いずみ会会誌

会報いずみ

第38号

会報 いずみ 第38号

発行 平成6年12月10日
 編集人 山田清子
 発行人 田中英道
 発行所 いずみ会
 〒178 練馬区東大泉5-3-1
 都立大泉高校内
 ☎ 03-3924-0318

印刷所 (有)一光印刷所
 〒176 練馬区旭丘1-67-8
 ☎ 03-3953-3336

五十周年記念事業スタート

一層の発展めざし祝賀会、名簿整備

いずみ会は、来たる平成七年(一九九五年)に発足五十周年を迎えます。この大きな区切りを機に、会の活動を一層盛りたて、発展させるべく、五十周年記念事業を実施することが決まりました。十一月二十六日、大泉高校で開かれた幹事総会の席

上、全会一致で承認されました。記念事業は、
 ①会員名簿の整備(データベース化)
 ②新しい会員名簿の発行
 ③記念祝賀会
 の三本からなっており、すでにイベント担当の名倉光雄理事

みんなで広げよう同窓の輪

実行委員長 名倉光雄(中1期)

平成七年、私たちの「いずみ会」が発足五十周年を迎えます。その記念行事をとり行うべく、理事会、実行委員会の中ではさまざまな議論・検討を重ねております。とりあえず、会場と日時については、別記お知らせのとおり決定致しました。旧友、そして先輩後輩との語らい、なつかしの恩師との再会、久しぶりに訪れる校舎や運動場等のたがずまいは、きっと新鮮な感動と活力を貴方と与えてくれることでしょう。この機会に、母

校の生い立ちをふり返り、未来にその発展を願うことも大いに意義あることです。また、同期というヨコの絆に加えて、同窓というタテ糸を強めることは、一人一人の人生を更に豊かにする大きな財産となることでしょう。大泉高校で青春を過ごしたという共通の想いで繋がれた同窓の環を大きく花開かせる事こそが、当日の最大のイベントであると思います。是非とも多くの方が参加されることを願っております。

(中1期)を委員長とする実行委員会(会長の諮問機関)が祝賀会の検討に入っています。祝賀会は平成七年(一九九五年)十月十四日(土曜日)午後三時から六時まで、大泉高校体育館で行なう予定です。会費制で行ない、金額は未定。五百人規模の会にするのが目標です。

(学校で開催することによって生じる手間の多さや、料理・備品等の運搬費など目に見えないコストの大きさに、頭を悩めています)。

一方、名簿の整備は吉田寛理事(高25期)を中心に名簿部が進めています。この日は吉田氏から「会員名簿の整備は、名簿冊子の作成に本意があるのではなく、同窓会の活性化や基盤作りには不可欠なものである。」こと、「会員の動向調査には多大な費用と時間がかかるので、ご協力をお願いしたい。情報の管理は徹底して行なう。」ことが示され、幹事の賛同が得られました。名簿発行に際しては、販売価格をおさえるため、賛助広告を募

集する予定です。記念事業が実施されることになって、会報發送費の増額(十六万五千円)など、平成六年度予算の一部修正が必要となり、幹事総会で承認されました。ただこれについては、「この程度の予算の変更は、執行部の裁量の範囲内。幹事総会の承認はいらないと思う」との意見があり、多数の賛同を得ました。今後は修正の額に応じて適宜対応してゆくこととなります。

五十周年記念事業を成功させるには、会員の方々のご協力が欠かせません。お手伝い下さる方を募集中です。母校いずみ会まで、ご連絡をお待ちしています。

主な記事

- 新役員選出される (2頁)
- 会長・事務局長あいさつ (3頁)
- 同期会だより (4頁)
- 永嶋先生は (5頁)
- サッカー界の正義の味方 (5頁)
- 読んでお徳な同期会便利帳 (5頁)
- 会費納入者一覧 (6~10頁)
- 卒業生の進路状況 (11頁)
- 亀井静香運輸相大いに語る (12頁)

50周年記念祝賀会

平成7年10月14日(土)午後 母校にて開催!

田中英道会長(中2期)を選挙で再任

事務局長には 山田清子さん(高7期)

五月一日(土)午後三時より平成六年度第一回いずみ会幹事総会が大泉高校会議室で開催されました。

はじめに、司会の植村久理事(高21期)から、幹事総数五十九人のうち、出席者四〇人、委任状二三七人で、委任状も含め三分の一以上の出席となり、会が成立する(規約第13条・15条)という確認がされ、幹事総会が開会されました。

田中英道会長(中2期)の挨拶のあと、西澤正博氏(高28期)が議長に選任され、平岡静子氏(高9期)と関口雄一氏(高44期)とが議事録署名人に指名され、以下の議事に入りました。

一 「平成五年度事業報告」として、いずみ会総会・幹事会・役員会・委員会開催や会報発行等の諸活動が橋本武彦事務局長(高11期)から報告されました

二 「平成五年度決算報告」が富田順子理事(高11期)からなされました。

三 「平成五年度監査報告」が鈴木哲監査役(高16期)によってなされました。近い将来の会計状況が非常に厳しくなるであろうという深刻な危機感が示され、会費収入の確立が急務であることが指摘されました。

四 これらの報告をふまえて、

五 「平成五年度事業報告」「平成五年度決算報告」が賛成多数で承認されました。つづいて「会費振込状況報告」が梅澤やよひ理事(高6期)よりなされ、四月と五月月上旬までで会費・寄付あわせて延べ約五五〇人分、総額約三五〇万円が振り込まれ、滑りだしは好調であることが報告されました。

六 「平成六年度事業計画」に「平成六年度事業計画」に「平成六年度事業計画」が橋本武彦事務局長(高11期)から説明・提案され、賛成挙手多数で承認されました。とくに、同窓会であるいずみ会の五十周年を記念する行事や会

員名簿のデータベース化などが、実施に向けて動き始めることになりました。役員改選 まず会長選挙がおこなわれました。会長には、佐藤亮一氏(中1期)と田中英道氏とが立候補され、それぞれ演説をされました。そのあと投票により田中氏が会長に当選されました。開かれたいずみ会を実感させるはじめての選挙でした。

平成6年度いずみ会役員名簿

(カッコ内の数字は卒業の期。◎は部会長)

| | | |
|--------|---|--|
| 役員担当 | 会長、副会長、理事 | 事務局幹事 |
| 会長 | 田中英道(中2) | |
| 副会長 | 橋本武彦(11) 鈴木哲(16) | |
| 事務局長 | 山田清子(7) | |
| 会報部 | ◎中村謙久(18) 植村久(21) | 仲沢浩一(32) 鍵田政信(32) 福本ちあき(34) 平松香子(40) 関口雄一(44) 高野よりこ(44) 山本章義(13) 長栄邦夫(20) |
| 名簿部 | 茂木光男(8) 寺章夫(20) ◎吉田寛(25) | 杉山明美(18) |
| 記録部 | 武市則昭(9) ◎植村久(21) | 山本章義(13) 横山由美子(13) |
| 会計部 | ◎梅澤やよひ(6) 富田順子(11) 大久保靖(29) | 真柳仁(24) 鍵田政信(32) 服部秀治(35) 湯浅幸(35) 伊藤慶明(43) 畑村真智子(43) 竹内健一(45) 田村朋子(45) 椎葉亮一(11) 安東洋子(12) 伴隆徳(14) 大場修一(16) 栗原正成(20) 長栄邦夫(20) |
| 総務部 | ◎宇多正行(25) 西澤正博(28) | 広瀬芳子(11) 佐藤克子(13) |
| イベント担当 | 名倉光雄(中1) 日高周子(4) 戸田一誠(13) 橋本武彦(11) 鈴木哲(16) 寺章夫(20) 野島陽子(28) | |
| 旧職員担当 | 菊谷義美(中2) | |
| 母校連絡担当 | 沼田英一(26) | |
| 監査役 | 春日孟治(中1) 新遠寛(2) 藤鈴木哲(16) | |
| (顧問) | 田中公一 | (都立大泉高校校長) |

新しい理事が選任されたのに伴って、各部会の活動を支えていただく事務局幹事の方がたも出揃いました。事務局幹事は規約第二十七条で「理事会の承認を経て、会長が任免する」となっています。概ね前執行部でも活躍していただいた方に、引き続きお願いしています。ご多忙な向きも多いと思いますが、よろしくご協力をお願いします。(事務局)



記録破りの暑さを乗り越え、今年もあとわずかとなりましたが、会員の皆様、お元気でいらつしやいますか。

去る五月に開催された幹事総会において会長に再選され、六月の総会でも就任のご挨拶を申し上げました。一昨年の四月以来目標として掲げて参りました「一万八千名の会員の皆さんと

三十余年間も、名ばかりの幹事だった私が、いずみ会に深くかゝるようになったのは三年前の母校創立五十年記念の祝賀会準備の時からです。あの時は母校創立の年に生を受けた十一期の方々の素晴らしい行動力に、ただ、感心しながらオタクと協力させていただいただけでした。

それから三年、何とはなしにいずみ会の活動に参加しているうちに今年は事務局長という大



の信頼の固い絆づくり」は、着実に動きだしています。この度の再選は、更に一層努力せよとの激励と受け止め、この目標に向かい熱慮・討議・実行を重ねていきたいと思っております。さて本年四月、二十五年ぶり

信頼の絆づくりに、協力をよろしく

会長 田中 英道(中2期)

いずみ会の規約が改正されました。新しい規約については、前回の会報でも詳しく取り上げておりますが、その基本理念は「開かれたいずみ会」です。誰もがいつでも参加できる、そんな姿が規約の上だけでなく、実

際活動の輪として、広がっていきようにしたいと思えます。規約改正では、会費制の導入も行いました。後のページにある通り、一千名を超える方から会費の振込をいただきました。この場でお礼を述べさせていた

だくとともに、より多くの方々からのご協力を、あらためてお願い申し上げます。ところで、来年は最初の卒業生が母校を巣立ってから50年になります。つまり同窓会50周年を迎えるというわけです。この

50周年を記念するイベントを、母校で開催しよう、現在準備を進めております。母校の先生方を始め、旧職員の方々やPTAのご協力も仰ぎ、楽しい催しにしたいと思えます。また、この機会に同窓生の名

費用もかかりますが、賛助広告などを掲載し、会費運用のバランスを図りたいと考えています。いずみ会は、皆さんの多方面のご支援やお力添えを、必要としていきます。ご協力の程、お願い申し上げます。

きな役を引き受けることになってしまいました。私が大泉高校を卒業した頃はいずみ会は会員数も少なくそのぶん、幹事も少数でみな若かったし、会長になられた中学一、二期の方々もまだ二十才代でした。幹事のほとんどが大学生か

ます。世帯が大きくなれば解決しなければならぬ問題も多々あるのは当然ですが、会議では「株主総会を例にとると……」とか「配当金の率のような……」などの科白が出るのですからいずみ会も歳を重ねたのだなあ、と感心したりしています。

その記念事業をどうするかという事です。大筋は決ってきたようですが、資金のこともあって実行委員の方々も色々苦心しているようです。また完全な卒業生名簿も出来れば五十周年に間に合せたい、そして前回に発行した名簿には、

も大変なようです。長い時間議論しあっても決まらず、うんざりすることもありますが、これもみないずみ会の活動を活発にするための「真心」なのだ、と頼もしく思うことにしています。そして何よりも心がけなければならぬのは、これからは若い人達が進んで参加する魅力あるいずみ会を作ることだ、と思っています。

強い個性、長い議論、またよい哉

事務局長 山田 清子(高7期)

大学院生だったと記憶しています。生徒会の続きのような雰囲気、それぞれ分野で活躍しはじめた先輩達と同窓会の仕事をするのは、けっこう楽しかったものです。

いまいずみ会では昨年承認された新規約にしたがって幹事の中からお願いした理事二十名程が隔月に集会を開いています。そしてその間には、準備のための執行部会も開かれているので

卒業時の住所のままの期も多いので何とかそれを修正したい、とワープロ、パソコンなど大いに駆使してより正確な名簿になるよう名簿委員会を中心に頑張っています。理事をはじめ、それらに活躍してくれる方々はなか／＼個性が強く、一つの事を決めるの

山田清子さんは昭和十一年(一九三六年)東京都目黒区生まれ。武蔵野音大音楽科を卒業し、音楽教師として活動してこられました。現在神代中、宮前中の非常勤講師。著書に『唱歌一四五曲の散歩道』(朝日新聞社)があります。

そんな頃しか知らない私が三十余年ぶりに接するいずみ会にはとまどうことがたくさんあり

当面の大きな問題は、いずみ会が来年五十周年を迎えるので、

同期会だより

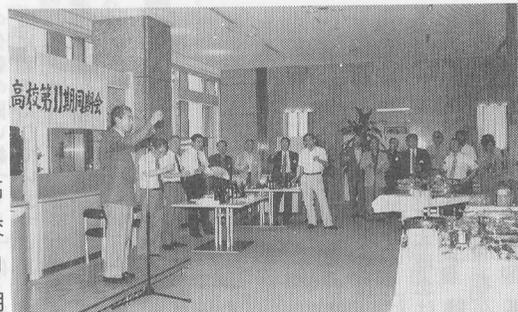
高校8期

今回は還暦記念
赤い表紙の名簿を

宇田川公子



高校8期



高校11期

そのあとは、歓談。

卒業以来五年ごとに開いてきた同期会でしたが、今回は三年目のこの三月二十六日、前回と同じ渋谷、東急ゴールデンホールで開催しました。出席者は百四名。橋本精一先生、土屋光道先生、小島勇作先生ご夫妻、畑野正毅先生、花崎文一先生が花を添えてくださいました。幹事の伊藤昭三さんの開会のあいさつに続いて、橋本先生に音頭をとっていただいて、乾杯。

そのあとは、歓談。今回は同期生のミニ講演、ビンゴゲームなど内容が盛り沢山で、再会したのことはを交わす時間がなかったという声も出たので、今回は同期会の原点に戻って、会場と時間と飲食物を準備するだけで、それぞれ自由に楽しんでいたかどうかということにしました。みんなグラス片手に右往左往、あつという間に三十数年前にタイムスリップ、会場は交歓の坩堝と化しました。二時間後、先生を中心にクラスずつ壇上並び、司会の茂木光光さんによるインタビュー形式で先生の近況を紹介、続い

て記念撮影。中締めは校歌、校友の歌を合唱して盛り上がったところでまた歓談。

四時間という長丁場だったにもかかわらず、語り尽きなかったのか、感動の余韻を惜しむかのように、次の会場にも出席者の四分の三が集団移動、楽しい春の宵でした。

八期は山谷敬之さんを中心に各クラスの連絡がよくとれていて同期会のたびに名簿を新しくしています。今回は還暦記念の赤い表紙の名簿を作る予定です。

高校11期

都庁見学のあとは
三次会へと突進！

加藤 勇

去る七月二日(土)午後二時より、新宿の都庁舎内議会議室トランにおいて、四年半ぶりに第五回同期会が開かれました。梅雨明け前の突然の猛暑にもかかわらず、原田、堤両先生と、八十八名(男五十八名、女三十名)の仲間が集いました。内容は、①いずみ会の現状報告、②同期会の会計報告、③11期ロゴマーク制定の投票、④カルチャートーク(年二回、同期生が体験などを語る会)のテーマ募集などでした。

会場には、一号から九号までの11期会報も展示され、五〇年代のポピュラーミュージックがバックに流れ、短い時間でしたが、最新情報の交換なども楽しみ、最後は上階にある「都議会議場」及び「議長室」などの見



高校20期

学もしました。最後はクラスごとに別れて、幹事の確認や選出を行い、いつものように校歌を歌って締めくくりました。(ところで、どなたか楽譜通りに録音された校歌のテープをお持ちでしたら、どうか11期幹事までご一報ください。)

三グループに別れて記念撮影ののち、二次会が開かれるまでの間に、展望室に行き、二百メートル上空から東京の町並みを眺めました。二次会でも参加者は七十名もあり、久々の出会いにあの青春の思い出ばかりでなく、現在の健康状態についてなど話は尽きず、その半分は三次会へと進みました。時間が、第一の青春に戻ったところで、停止してしまっただけでした。

高校20期

声帯は失われたが
クマさんは元気です

渡辺 緑

高校20期の同期会が、九四年六月二十六日、神田の学生会館

で開かれ、先生方(塚谷、清水、小島、橋本、小田切、花崎、安藤、小山の各先生)、同期生百七名が一堂に会しました。卒業後二十六年、四十五歳というのは、ちよと肩の力が抜けて、ありのままの自分を見つめ直せる時期なのかもしれません。橋本精一先生(八十歳)のお元氣な乾杯の音頭でパーティ開始。めいめいがお酒片手に懐かしい先生のところへあいさつにいたり、サークルやクラスの友たちと旧交を温めたり。さながら会場が大泉の教室か部屋の一角であり、自分も相手もあのころに戻ったような不思議な錯覚に陥りました。たしかに、あのころは、その後の「激動」の時代の原点だったにちがいないありません。小島先生(クマさん)は、ガンの手術で声帯を失っておられました「まだ目も耳も仕える」と負けてはいません。花崎先生(ブンチャン)は、彼らしい繊細な心で「ここにき

永嶋先生はサッカー界の正義の味方

六月五日(日)に開催されたいずみ会総会のイベントの部で、母校旧職員(体育)の永嶋正俊先生が、サッカーのことJリーグのことを講演されました。

永嶋先生は、昭和二十八年から十年間の御在職中サッカー部の顧問として熱意あふれる御指導をされましたが、その後もサッカーの審判員として活躍され、長年にわたり国際審判員としても活躍されました。

現在は、日本大学教授であるとともに、日本サッカー協会規律・フェアプレー委員長として、サッカー界の正義の味方の代表をなさっています。永嶋先生の講演の要旨は以下のとおりです。

サッカーの審判に真剣に取り組むきっかけは、昭和二十八年秋の都大会で疑問の残るペナルティキックをとられて大泉チームが敗退したことである。

「日本代表クラスのゴールキーパーになるだろう」と見込んでいた部員がいたが、最後の学年で本人の強い希望をいれてデ



イフエンダーとしてプレーさせたのは、温情のための失敗だったかもしれない。そのままキーパーを続けさせたほうがよかったと悔やまれる。

現在日本の審判員のトップとして活躍している高田静夫さんを、口説き落とすとして審判の世界に引き込んだのは、見込みどおりで大成功だった。

Jリーグが発足して大人気だが、その要因のひとつに多和田先生のかくれた功績がある。

多和田先生は大泉で教鞭をとられたあと東京教育大へうつられたが、学習指導要領の体育に、小中高一貫した球技種目としてサッカーをいれた。つまり、だれでも体育の授業でサッカーを経験しているわけで、サッカーを受け入れる土壌ができていた。

Jリーグの人氣が定着するかどうかは、樂觀できない。悪質なプレーをなくすることが重要であり、「悪さ」が続くとサッカーは見放されてしまう。フェアプレーがスポーツの基本である。

そのほか、国際試合で軍隊に護衛され緊迫した雰囲気なかで審判をしたことや、スタジアムの数万人の観衆の顔だけがびつしりと並んで自分を見ているような異様な光景に武者震いして試合開始の笛を吹いたことなどの体験談をされました。

(植村久二 高21期)

ていない人」のことを心配されていきました。離れてからもいろいろなと慮ってください。先生方のお気持ち伝わっています。

先生方のあいさつ、ビートルズナンバーの生演奏、全員の記念撮影、校歌・校友の歌斉唱とプログラムは進行し、熱気と感動のうちに三時間はまたたく間にすぎ、五年後の再会を期して散会しました。二次会には八十五名の方が参加しています。五年後が楽しみです。

バスケット部
華麗なプレー続出
OB、OG対現役戦
秋田 茂

残暑厳しい九月四日、毎年恒例の大泉高校バスケットボール部OB会が開催されました。

読んでお得な同期会便利帳

同期会の幹事を引き受けた方たちに、知ってお得なニコニコ情報をお届けします。

▼同期会でなくてはならない物といえば、ネームプレート。名前が分かれば思い出もすぐに蘇ります。いずみ会所有のネームプレートをお貸しします。

▼母校創立五十周年を記念して三年前に作成した記念誌。すでにご存じの方も多いと思います。見たことも聞いたこともな

今年で四六期目の卒業生を迎え、現役の部員、顧問の先生を交え、まずは近況報告をかねた自己紹介。今年は一九五〇年(昭和二十五年)卒の鈴木研治氏(郵船エージェンシー)、中嶋尚氏が最年長。大泉高校が空襲を受けた話、外コートでの裸足の練習など、今では想像もつかない二人のスピーチに、若い会員はびっくり。また昨年は最年長であったパンチョこと佐藤浩一氏(テレコム産業)は、先輩の鈴木氏、中嶋氏との再会に、「先輩！と呼べる人がいるのはいいですね……」と一言。自己紹介は時間を大幅にオーバーして終了しました。

次は恒例のOB対現役、OG対現役の対抗試合。OGは若手が中心で動きもスムーズ。ところがOBは気持ちはあるものの、

い会員が圧倒的。写真も数多く掲載されているこの記念誌、同期会会場のインテリアのひとつとしてご利用ください。数に限りがありますが、販売もいたします。

▼『会報いずみ』(今、お読みいただいているこの会誌です)の過去三号分のバックナンバーが多少残っています。無料配布できますので、ご利用ください。

▼同期会開催に際して最大のポ

体が言うことをきかない人ばかり。その中で光ったのは六〇年(三五年)卒の榎原正明氏(日本電気ソフト)と六八年(四三年)卒の関屋収氏(住友重機械)。現役と互角の華麗なプレーを披露してくれました。

久々にボールを持ち、心地良い汗をかいたあとは、反省会。おいしいビールを飲みながら、昔話に花が咲いていました。

住所の分からない会員も多くなか、今年の参加者は約六〇名。来年も九月の第一日曜日に行ないますので、皆様お待ちの上、最後に、大泉高校、バスケットボール部の顧問の先生方、そして現役の皆様に感謝を述べるとともに、来年の再会を楽しみにしています。(OB会・会長 高29期)

同期会、OB会の投稿を歓迎します

▼同期会直後は、期の名簿の鮮度が高い状態。そのホットな情報をいずみ会にもお伝えください(これはお願い)。

▼これら以外のご相談も含めて、母校内、沼田英一先生(高26期)まで、ご連絡ください。表紙にある住所あて。お待ちしています。(西澤正博 高28期)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 山田 | 野田 | 平岡 | 鎌倉 | 奥住 | 柚原 | 並木 | 竹之下 | 小口 | 今牧 | 阿部 | 井口 | 河原田 | 和田 | 松沢 | 平田 | 平田 | 平尾 | 長谷川 | 武市 | 隅田 | 鈴木 | 早乙女 | 斎藤 | 大石 | 石沢 | 相原 | 渡部 | 森崎 | 湊 | 増沢 | 星山 | 萩原 | 西山 | 永田 | 立松 | 坂卷 | 齊藤 | |
| と | 晏 | 静 | 悦 | 訓 | 美 | 正 | 晴 | 悟 | 美 | 典 | 正 | 盛 | 堯 | 末 | 佐 | 翰 | 哲 | 文 | 則 | 純 | 美 | 直 | 元 | 恭 | 秀 | 英 | 邦 | 正 | 弘 | 光 | 晋 | 直 | 玄 | 美 | 修 | 持 | 正 | |
| 五 | 五 | 五 | 二 | 五 | 一 | 終 | 終 | 終 | 三 | 五 | 三 | 終 | 一 | 終 | 三 | 五 | 一 | 五 | 五 | 一 | 一 | 一 | 終 | 五 | 二 | 五 | 五 | 終 | 五 | 五 | 終 | 二 | 一 | 一 | 五 | 一 | 終 | 一 |

四

一〇

四 三

五

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|---|---|
| 館野 | 崇島 | 滝沢 | 藤本 | 坂本 | 菊地 | 金古 | 奥野 | 藍原 | 吉田 | 吉田 | 森川 | 松田 | 藤村 | 羽根田 | 羽根田 | 成瀬 | 中里 | 戸部 | 関口 | 齊藤 | 神田 | 金沢 | 笠尾 | 金井 | 上妻 | 上妻 | 越智 | 織田 | 太田 | 大城 | 宇山 | 大谷 | 石川 | 池田 | 新井 | 阿部 | 高十期 | | | |
| 元 | 弘 | 誠 | 水 | 庸 | 吉 | 芳 | 正 | 寧 | 猛 | 元 | 潤 | 貴 | 紀 | 千 | 達 | 濟 | 光 | 興 | 昌 | 昌 | 俊 | 健 | 孟 | 欣 | 良 | 誠 | 宣 | 和 | 路 | 尚 | 捷 | 義 | 貴 | 宗 | 忠 | 藤 | 高十期 | | | |
| 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 一 | 一 | 五 | 五 | 一 | 終 | 終 | 五 | 五 | 三 | 五 | 一 | 終 | 五 | 五 | 終 | 一 | 五 | 五 | 五 | 一 | 五 | 五 | 一 | 五 | 一 | 五 | 一 | 五 | 一 | 五 | 一 | 五 | 一 |

五

四 五 五

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 橋本 | 根本 | 根本 | 反町 | 瀬畑 | 佐藤 | 後藤 | 黒子 | 北岡 | 川崎 | 片柳 | 小野 | 海老原 | 井上 | 伊藤 | 秋田 | 菅家 | 御園 | 武藤 | 前川 | 廣川 | 寺崎 | 坪井 | 吉田 | 山田 | 山田 | 原 | 桜井 | 岩瀬 | 本橋 | 茂木 | 村上 | 藤田 | 榎山 | 天明 | 田所 | | |
| 峰 | 知 | 幸 | 伸 | 正 | 勝 | 多 | 傳 | 經 | 紀 | 良 | 昭 | 代 | 紘 | 千 | 喜 | 正 | 賢 | 正 | 禎 | 和 | 由 | 和 | 信 | 昭 | 進 | 康 | 徹 | 美 | 達 | 富 | 治 | 肇 | 建 | 栄 | 満 | | |
| 五 | 一 | 一 | 一 | 五 | 一 | 三 | 終 | 五 | 五 | 一 | 一 | 五 | 三 | 一 | 一 | 五 | 二 | 終 | 終 | 三 | 二 | 一 | 終 | 五 | 五 | 三 | 終 | 一 | 一 | 五 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 三 |

二

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 新海 | 島田 | 椎葉 | 小山 | 加藤 | 大沢 | 吉田 | 結城 | 山中 | 山田 | 田中 | 宮本 | 橋本 | 務台 | 野村 | 中井 | 富永 | 富田 | 池田 | 寺島 | 田村 | 玉川 | 高野 | 篠原 | 小林 | 片寄 | 奥住 | 大澤 | 宇佐 | 浅野 | 青木 | 横田 | 横田 | 山口 | 三浦 | 松沢 | 細井 | 保科 | 樽松 | |
| 祥 | 亮 | 泉 | 多 | 建 | 竜 | 仁 | 隆 | 揚 | 直 | 雄 | 武 | 桂 | 浩 | 紀 | 功 | 順 | 馨 | 千 | 元 | 直 | 絢 | 玲 | 明 | 悠 | 美 | 美 | 美 | 克 | 由 | 泰 | 裕 | 紀 | 英 | 千 | 光 | 太郎 | | | |
| 三 | 三 | 五 | 七 | 終 | 二 | 一 | 五 | 三 | 一 | 一 | 一 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 二 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

三 三

四

二

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|
| 諏訪 | 菅原 | 桜井 | 齊藤 | 久保 | 石田 | 高十三期 | 横山 | 山崎 | 高木 | 向井 | 小林 | 小野 | 上村 | 板橋 | 山田 | 宮田 | 森 | 千葉 | 須崎 | 亀崎 | 牛島 | 中宅 | 篠 | 佐高 | 畔柳 | 熊谷 | 小林 | 広瀬 | 服部 | 生田 | 長島 | 中村 | | | | |
| 立 | 玲 | 正 | 美 | 幸 | 徳 | 美 | 紀 | 真 | 節 | 真 | 知 | 敦 | 享 | 昭 | 保 | 清 | 武 | 勝 | 武 | 昇 | 順 | 雅 | 敷 | 万 | 次 | 憲 | 浩 | 芳 | 雅 | 目 | 正 | 淳 | | | | |
| 五 | 五 | 一 | 一 | 一 | 五 | 終 | 終 | 終 | 五 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

高十三期

高十二期

五

一

三

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 國谷 | 紙谷 | 西野 | 染谷 | 竹内 | 原野 | 栗盛 | 結城 | 益田 | 橋本 | 白井 | 三浦 | 平野 | 林 | 中田 | 富永 | 鈴木 | 齊藤 | 後藤 | 小出 | 加藤 | 大高 | 太田 | 稲垣 | 山本 | 山本 | 水谷 | 堀本 | 早川 | 中井 | 高津 | 村松 | 松尾 | 成田 | 戸田 | 関根 | | |
| 俊 | 和 | 敬 | 勇 | 厚 | 征 | 康 | 理 | 豊 | 南 | 誠 | 智 | 千 | 正 | 捷 | 久 | 栄 | 洋 | 翠 | 俣 | 能 | 光 | 信 | 仁 | 章 | 章 | 昭 | 禎 | 美 | 淳 | 幸 | 昇 | 美 | 満 | 一 | 祥 | | |
| 一 | 一 | 一 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

高十四期

一〇

二

三

二

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|-----|
| 森川道子 | 古山靖子 | 野口雄二 | 中村貞子 | 永澤晴美 | 富樫泰子 | 田丸洋 | 小山崇夫 | 小島静 | 串道昭 | 金井淳 | 大塚義昭 | 小川幸子 | 飯島信枝 | 朝倉幹子 | 吉田智彦 | 柳澤智子 | 坂本紀生 | 青木喬二 | 水島磐男 | 奈良文郎 | 中島悠美子 | 杉山あけみ | 杉山武彦 | 可知悦子 | 宮崎節子 | 内田阿紀子 | 玉山昌利 | 片山朋子 | 渡辺殷子 | 山本ケイ子 | 長峰光子 | 水口成子 | 平田晃 |
| 一一 | 一五 | 三 | 一 | 一〇 | 終 | 終 | 終 | 二 | 三 | 一〇 | 二 | 一〇 | 二 | 二 | 三 | 一〇 | 五 | 終 | 一 | 五 | 五 | 五 | 三 | 一 | 二 | 一〇 | 五 | 終 | 一〇 | 五 | 一 | 一 | |

高十六期

高十五期

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|-----|------|-----|-------|------|------|-------|-----|------|-----|-----|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|-----|------|-------|-----|-------|
| 大町禾子 | 山口雅子 | 最上武夫 | 藤村紀子 | 豊島公治 | 杉本裕子 | 篠和夫 | 功力義雄 | 川和美 | 片倉みつ子 | 稲田和子 | 堀江悠子 | 平田三佐子 | 式田譲 | 栗原一恵 | 勝由紀 | 泉由紀 | 最上捷信 | 土生栄 | 鈴木雪子 | 鈴木次夫 | 佐賀治夫 | 小松義雄 | 石川直樹 | 細井典子 | 福島敦子 | 佐藤由紀子 | 佐藤和子 | 笹目勝子 | 郷昌代 | 川井和子 | 奥田日佐枝 | 東千恵 | 赤川美智子 |
| 一〇 | 五 | 三 | 五 | 終 | 五 | 〇 | 五 | 一 | 一 | 五 | 〇 | 〇 | 五 | 〇 | 一 | 一 | 一 | 五 | 五 | 五 | 〇 | 〇 | 七 | 一 | 終 | 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | 一 | |

高十七期

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|-----|-------|-----|------|------|------|------|-------|------|--------|------|------|-------|------|------|------|------|-----|
| 浅井貴子 | 渡辺伸夫 | 山田邦武 | 古屋一仁 | 船津道子 | 平林千鶴子 | 林真理子 | 馬場のぶ子 | 高橋盈江 | 佐藤牧夫 | 斉藤裕子 | 行徳和夫 | 今浜直美 | 伊丹真三 | 網野三昭 | 青木隆 | 丸山淳子 | 松浦茂樹 | 本田光子 | 福場光 | 林屋このみ | 中村譲 | 中村雅子 | 多田幸典 | 高橋誠至 | 田瀬則雄 | 高井千恵子 | 杉山明美 | 佐々木しげ子 | 酒井君枝 | 斉藤保広 | 国枝喜美子 | 賀曾利隆 | 小沢京子 | 大類肇子 | 内田一恵 | 伊藤彰 |
| 三五 | 終 | 終 | 五 | 五 | 〇 | 五 | 五 | 〇 | 一 | 一 | 三 | 〇 | 五 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | 五 | 五 | 一 | 三 | 一 | 五 | 二 | 二 | 二 | 一 | 五 | 五 | 終 | 五 | 一 | 一 |

高十八期

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-----|------|-----|-------|-------|-----|------|-------|------|------|-----|------|-------|------|-----|------|-----|-------|------|------|-------|------|-------|-----|------|------|-------|-------|------|------|-----|---|
| 森川治恵 | 茂原祥一 | 源恭子 | 松本寛 | 星野英樹 | 日浅泉 | 二木あつ子 | 田中百合恵 | 立山香 | 瀧島恭子 | 高橋みさ子 | 高木康仁 | 大澤晴繁 | 関屋収 | 鈴木定子 | 佐々木公子 | 大槻伸一 | 扇博子 | 今村房雄 | 石田勇 | 三浦けい子 | 下村葉子 | 大岩常男 | 三原千砂子 | 松木伸男 | 池羽万里子 | 加下進 | 元崎雅子 | 川上喜枝 | 西川早智子 | 長沼千佳子 | 永井康子 | 酒井陽三 | 中村謙 | |
| 五 | 二 | 一 | 五 | 五 | 一 | 一 | 五 | 〇 | 三 | 〇 | 五 | 一 | 一 | 五 | 一 | 一 | 五 | 一 | 一 | 終 | 五 | 一 | 一 | 終 | 五 | 五 | 五 | 二 | 五 | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 |

高二十期

高十九期

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-----|------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|-----|------|------|-----|------|-------|------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 徳岡真紀子 | 五味博子 | 小平田正行 | 国吉幸子 | 遠藤隆久 | 荒井真理子 | 渡辺順子 | 脇田清子 | 山田由美子 | 山下道男 | 宮本正信 | 三品徹 | 丸岡恵子 | 牧川真理子 | 讚井正光 | 藤本万里 | 比地原正明 | 比地原正明 | 羽生田博正 | 日浅ひろみ | 長谷川順子 | 中西出昭子 | 豊野みどり | 豊野勉 | 土肥暁美 | 寺章夫 | 塚田直樹 | 高原善治 | 高橋覚 | 斉藤信樹 | 小林惠一郎 | 小林義純 | 金子研一 | 尾崎彰夫 | 池田武男 | 依田明子 | 吉田明子 | 行本修 | 田中克子 |
| 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 一 | 〇 | 五 | 五 | 五 | 五 | 一 | 一 | 五 | 一 | 二 | 三 | 三 | 五 | 五 | 五 | 一 | 五 | 五 | 五 | 五 | 終 | 五 | 終 | 二 | 五 | 五 | 一 | 二 | 三 | 五 | 五 | 三 | 一 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|------|-----|-----|------|------|------|------|-----|-------|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|-----|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|
| 讚井優子 | 樋口さち子 | 浜口はるみ | 竹内信子 | 田口隆 | 澤田章 | 小林正男 | 渡辺啓子 | 若林和子 | 吉井隆夫 | 守本純 | 水島美千留 | 水島清隆 | 廣井真紀子 | 平塚以津美 | 長谷川昇司 | 中沢裕之 | 寺師良樹 | 富高頼子 | 高山繁一 | 新藤斎 | 新川順子 | 佐藤敬一 | 紺野百世 | 奥澤康司 | 薄井秀樹 | 植村久 | 海老根夕記子 | 岩城隆就 | 射水雄三 | 荒井愛子 | 荒井滋喜 | 福原正和 | 田村邦子 | 佐倉純子 | 牧野義雄 | 能代良司 | |
| 一 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 一 | 三 | 五 | 五 | 終 | 一 | 一 | 五 | 三 | 五 | 一 | 七 | 一 | 一 | 一 | 三 | 五 | 一 | 二 | 終 | 二 | 一 | 〇 | 五 | 一 | 一 | 〇 | 〇 | 三 | 終 | 五 | 二 |

高二十一期

塩路信二郎 一〇
相沢 真知子 五
池上 彰 五
山口 耕太 三
朝倉 素雄 一〇
加藤 和夫 終
小林 明子 五
白川 知多 二
本橋 豊 五
吉野 茂紀 一

高二二期

齊藤 良造 一〇
寺田 隆郎 一〇

高二三期

平 敏明 一

高二四期

小倉 力 一〇・五
長沢 陽子 五
檜山 博子 五
安田 容子 一
秋山 祐子 一
真柳 仁 一
木下 成夫 終

高二五期

會田 幸子 五

石田 浩 一
宇多 正行 一〇
榎本 洋信 二〇
加納 達信 五
関屋 利恵 一
高橋 敬二 一〇
田名見亨 一五
仲田由美子 一〇
羽部 公彦 終
淵河 恵子 二〇
福井 紀恵 一五
宮園 由紀子 一
市川 博之 五
伊藤 攻 二
梅村 和正 一〇
江村 信枝 五
岡 真佐志 二
小川 正幸 五
柏村 友彦 一
柏村 真弓 一〇
河崎 明宏 一〇
川島 貴子 三
久野 千秋 一五
今 玲子 一
斉藤 弘 五
佐野 恭子 五
鈴木 三子 二
竹歳 三千子 一
戸松 英子 一
鳥澤 雅 一〇
内藤 健吉 五
内藤 祐子 五

高二六期

山下 昌子 一
相山 裕子 一〇
石田 徹 一〇
上原 正美 一〇
小堀 宏 一〇
世良田あゆみ 一〇
内藤 幸子 三
沼田 英一 五
松木 義文 五
谷治 環 五
山本 晃 一
赤池 俊子 一
池田 明 五
江口 勇 五

松原 晴巳 五
宮川 修作 三
山口 暁子 一
吉田 寛 五
和田 達夫 三
大橋 裕 終
川村 晃 一〇
川村 千年 三
見城 伸子 五
土井 悦郎 一〇
中川 隆 一〇
朝比奈裕利 三
寺田 啓子 五
橋本 俊英 一〇
山口恵美子 一〇

高二八期

高二九期

天沼 邦彦 一
天沼 道代 一
池田 意都子 一
岡本 知子 三
蟹江 昌子 二
佐藤 慶子 五
中村 まゆみ 一
服部 俊一 五
浜口 洋子 五
平光 康晃 五
秋田 茂 一
大門 誠 一
大久保靖 一
田島 由美 一〇
前岡 正憲 一
加藤 健次 一
倉田 泰子 五
山下 至 五

西澤 正博 終
平山 美知子 五
高瀬 任子 五
尾崎 久美子 五

根本 通裕 五
黒川 亮 一
黒田 佳良子 三
竹本 明美 終
伊藤 美美 一
小平 留美子 一
小林 泰子 二
成田 美奈子 五
五十嵐幹雄 五

高三二期

町田 博美 二
相澤 裕子 五
岡本 昭彦 一
小沢 紀子 五
久池井幸子 二
小関 佳代 一
大塚 ひとみ 二
佐々木道人 一
土田 まゆみ 五
田村 恭子 一〇
仲沢 浩一 終
中村 英俊 一
西本 英人 五
野崎 ゆり恵 五
鎌田 政信 一〇
横川 清子 三
石井 寛良 一
松山 浩久 一
園田 美千代 五
武部 慎 八
福島 瑞枝 一
三海 裕子 一
河野 久美子 二
伊東 光世 三
杉浦 智恵 一
藤間 芳郎 五
藤間 千高 五
服部 文子 五

高三五期

佐久間悦子 五
柴山 滋 一〇
田中 美幸 五
福本 ちあき 一
小柴 秀昌 終
高野 正樹 三

高三七期

高田 正徳 一

高三八期

栗栖 なおみ 二

まだ、の方は会費納入を、よろしく!
いずみ会の足腰をしっかりさせるには、財政の安定が大切です。よろしくお願ひします。ご入金の際には、同封の郵便振替用紙をご利用になると便利です。(すでに終身会費を納入された方にはご迷惑と思いますが、一律に発送しておりますので、ご容赦下さい) お名前、電話番号、卒業年・期を忘れずに記入して下さい。
へ口座番号) 00120・2・718367 都立大泉高校同窓会いずみ会

杉田 大成 一

高三一期

松田 博 五
大浦 高之 一〇
大澤 麦 二
大野 理恵 二
木幡 剛 三

▼突然ではあります、二年半程会報を担当させて頂きました筆者は奈良へ転勤することとなりました。お世話になりました。

編集後記

▼本号の編集長をお引受けした後、オメダタが判明した筆者。つわりのため、超多忙な高18期中村さん、高40期平松さんをはじめ、皆様にすっかりおまかせ

(平松香子 高40期)

▼高20期の宮本さんが経営していらつしやる原宿の喫茶店クリステイを編集会議の定宿として利用させていただいています。おいしい紅茶とケーキが打合わせを和やかにし、自ずと進行も楽観的になります。

▼毎度のことながら、会報の編集が遅れて申し訳ありません。

(福本「五味」ちあき 高34期)

大泉高校平成6年度人事異動

(敬称略)

| | | | | |
|-----|-----|--------|---------|--------|
| 江平 | 清 | (物理) | 退職 | 志村高校へ |
| 高橋 | 健三 | (英語) | " | 清瀬東高校へ |
| 寺本 | 正誼 | (体育) | " | 井草高校へ |
| 糸井 | 明子 | (国語) | 田無高校から | |
| 諫山 | 和可 | (英語) | 砂川高校から | |
| 坂之井 | 不二雄 | (体育) | 小石川高校から | |
| 鈴木 | 史子 | (理科助手) | 新卒 | |

平成6年度いずみ会 予算

1. 収入の部

| | |
|--------------------|------------|
| (1) 新入会員入会金 (396人) | 1,980,000円 |
| (2) 雑収入 (利息) | 10,000 |
| (3) 前期繰越金 | 3,322,391 |
| 収入合計 | 5,312,391 |

2. 支出の部

| | |
|--------------------|------------|
| (1) 総会費 | 140,000 |
| (2) 役員・幹事会合費 | |
| 1. 幹事総会開催費 | 221,000 |
| 2. 理事会・役員会費 | 70,000 |
| 3. 執行部運営費 | 50,000 |
| 4. 部会・委員会費 | 70,000 |
| (3) 監査役会費 | 10,000 |
| (4) 会報費 | |
| 1. 37号 (印刷・発送) | 1,000,000 |
| 2. 38号 (印刷・発送) | 1,155,000 |
| 3. 封書費 (印刷費等) | 180,000 |
| (5) 会費徴収経費 | 120,000 |
| (6) 名簿作成費 (新入会員向け) | 200,000 |
| (7) 名簿調査補助金 | 200,000 |
| (8) 母校連絡費 | 100,000 |
| (9) 新入会員ラベルF P作成費 | 50,000 |
| (10) 雑費 | 20,000 |
| (11) 名簿積立金支出 | 400,000 |
| (12) 予備費 | 100,000 |
| (計) | 4,086,000 |
| (13) 次期繰越金 | 1,226,391 |
| 支出合計 | 5,312,391円 |

皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

▼思い起こせば、この後記を書くたびに反省してきました。今回も例にもれず、印刷直前までバタバタとして、予定を大幅に狂わしているのは、私です。たしか、一回目の編集会議は暑さ真ッ盛りの真夏に行い、その時決めた原稿〆切りも、まだまだ暑さの余韻残る頃に設定されていたような記憶が...

▼かなり無理なお願ひにもかかわらず、快く引き受けて頂きました諸先輩方、誠にありがとうございました。

してしまいました。多謝。

▼高44期の高野さん、関口さんが若手ホープとして会報係に仲間入りしました。いずみ会は世代、経験を越えて人と再び出会える場です。ご参加ください。

▼毎度のことながら、会報の編集が遅れて申し訳ありません。

▼毎度のことながら、会報の編集が遅れて申し訳ありません。

大泉高校新・旧卒業生の進路状況

(平成6年6月現在)

国公立大学

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|------|----|----|----|
| 北海道 | 0 | 1 | 1 |
| 筑波 | 1 | 1 | 2 |
| 宇都宮 | 0 | 1 | 1 |
| 茨城 | 2 | 0 | 2 |
| 埼玉 | 10 | 2 | 12 |
| 千葉 | 1 | 2 | 3 |
| 東京 | 1 | 1 | 2 |
| 東京外語 | 3 | 0 | 3 |
| 東京学芸 | 5 | 2 | 7 |
| 東京工業 | 0 | 1 | 1 |
| 東京芸術 | 1 | 0 | 1 |
| 東京医歯 | 0 | 1 | 1 |
| 東京農工 | 0 | 4 | 4 |
| 電気通信 | 0 | 5 | 5 |
| 横浜国立 | 1 | 2 | 3 |
| 名古屋 | 1 | 0 | 1 |
| 東京都立 | 6 | 3 | 9 |
| 横浜市立 | 0 | 1 | 1 |
| その他 | 4 | 4 | 8 |
| 合計 | 36 | 31 | 67 |

私立大学

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|------|----|----|----|
| 跡見女子 | 2 | 3 | 5 |
| 独協 | 3 | 2 | 5 |
| 城西 | 1 | 3 | 4 |
| 駿河台 | 2 | 3 | 5 |
| 文教 | 1 | 2 | 3 |
| 青山学院 | 2 | 15 | 17 |
| 大妻女子 | 4 | 0 | 4 |
| 学習院 | 7 | 6 | 13 |
| 共立女子 | 1 | 2 | 3 |
| 慶応義塾 | 2 | 3 | 5 |
| 駒沢 | 7 | 13 | 20 |
| 芝浦工業 | 3 | 4 | 7 |
| 上智 | 4 | 10 | 14 |
| 成蹊 | 10 | 13 | 23 |
| 成城 | 2 | 8 | 10 |
| 専修 | 7 | 3 | 10 |
| 大東文化 | 8 | 25 | 33 |
| 中央 | 12 | 21 | 33 |

短大

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|------|----|----|----|
| 都立立川 | 1 | 0 | 1 |
| 都立医療 | 2 | 0 | 2 |
| 青山学院 | 6 | 1 | 7 |
| 跡見学園 | 5 | 0 | 5 |
| 大妻女子 | 9 | 0 | 9 |
| 学習院女 | 4 | 1 | 5 |
| 共立 | 4 | 0 | 4 |
| 実践女子 | 1 | 0 | 1 |
| 昭和女子 | 2 | 0 | 2 |
| 成城 | 6 | 1 | 7 |
| 東洋女子 | 3 | 1 | 4 |
| 武蔵野女 | 5 | 0 | 5 |
| 明治 | 0 | 2 | 2 |
| 立教女学 | 2 | 0 | 2 |
| その他 | 18 | 2 | 20 |
| 合計 | 68 | 8 | 76 |
| 専門学校 | 14 | 4 | 18 |
| 就職 | 0 | 0 | 0 |

| 大学名 | 新卒 | 旧卒 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|
| 津田塾 | 2 | 1 | 3 |
| 東海 | 1 | 13 | 14 |
| 東京女子 | 3 | 0 | 3 |
| 東京電機 | 4 | 6 | 10 |
| 東京理科 | 5 | 19 | 24 |
| 東洋 | 8 | 25 | 33 |
| 日本 | 21 | 31 | 52 |
| 日本女子 | 2 | 3 | 5 |
| 法政 | 5 | 21 | 26 |
| 武蔵 | 11 | 18 | 29 |
| 明治 | 7 | 23 | 30 |
| 明治学院 | 4 | 6 | 10 |
| 立教 | 8 | 2 | 10 |
| 早稲田 | 3 | 12 | 15 |
| その他 | 50 | 70 | 120 |
| 合計 | 212 | 386 | 598 |

出世の振り出しは、両角校長に見込まれた白紙の答案

いずみ会初の大員・亀井静香運輸相大いに語る

関西国際空港開港、スチュワード問題などで一躍「時の人」となった亀井運輸大臣ですが、実はいずみ会の会員(高校7期)なのです。会員の中から初めての大臣誕生という快挙に、早速面会を申し込みました。九月九日(月)、亀井氏と同期の遠藤寛氏の案内で、会長、副会長、事務局長ほか総勢五名で運輸省の大臣室を訪ねました。

亀井氏から開口一番、母校の皆さんに心から祝福していただいて本当に嬉しいとの歓待を受け、和やかな雰囲気なかで、大泉高校時代の思い出と現在に至るまでの道程について語っていただきました。

亀井氏は高校二年のときに広島県の高校から大泉高校へ転校してきました。なんとその経緯ですが、当時在学していた高校で通学定期の証明書発行が有料になった件で学校に抗議をしたところ、これを咎められてアカ(左翼)の学生と見なされ、中退せざるを得ない羽目に陥ってしまったとのことでした。

東京に出てきて編入生を募集している高校を五校ほど受けたものの、本人曰く答案用紙は殆ど名前しか書けなかったという出来で、当時校長をしていた両角英運先生の面接のお陰で救われた(入学出来た)のだと聞き

りに強調していました。両角校長といえば、様々な人材を育てたことで多くのエピソードを残しているらしい先生ですが、その両角校長に、答案用紙は殆ど白紙だが変わって面白そうなの人物だと見込まれ、「心を入れ替えて勉強するか。」と念を押されて「はい、勉強します。」と誓って入学が決まったとのこと

大泉高校に入学してみると、男子校だった広島の高校と違い、氏の言葉を借りると「丁度色気づいてきた頃でもあり、男女共学の教室は目が眩むばかりであったそうです。授業では、転校生という事で先生からよくあてられ、広島弁で答えると、女生徒たちにキャッキョと笑われま

した。美女に笑われるのが恥ずかしいと一念発起して、中学の教科書を買って勉強をやり直したそうです。その結果、東大に合格するまでになったのですから、当時から凄まじいエネルギー

の持主であったことが推察されます。現在の自分があるのも、勉強するきっかけを与えてくれた美女達(当時の山田事務局長を含みます。)のお陰ですと、繰り返し感謝の言葉を述べていた姿がとて印象に残りました。母校の思い出は、桜並木、周りの田畑の景色、そして運動会での仮装行列、ファイアーストームと、本当に楽しかったことばかりで、今でも鮮やかに蘇って来ますと、過ぎた青春の日々にしばしば思いを馳せている様子でした。

ところで、学生時代の亀井氏には、松川事件の研究会に参加したり「君が代」反対を唱えたり即ち反体制的な言動が多く見られたのですが、それが一八〇度転換して自民党の代議士になった背景には、どのような心境の変化があったのでしょうか?

大いに気になるところでしたが、「東大入学後、駒場寮で寮歌を歌っているうちに『日本人に目覚めた。』まさにその一言だ。」と、ピシリとした答えが返ってきました。

東大経済学部を卒業した氏は、初めは民間の会社に就職しました。ところが、安保騒動の報道を見ていて、警察力が弱すぎることを痛感し、なんと、一念発起して警察官になることを目指

します。そのため、せっかく入った会社を翌年の昭和三十六年三月いっぱいまで辞めて、七月の国家公務員試験を受験。首尾よく合格しました。

警察庁に入庁後は、エリートコースといわれる埼玉二課に勤務して、田中金脈の谷古宇(やこう)産業の摘発をするなど多くの業績を残しました。しかし、現場でなければ面白くないと、管理職を目指す直前でまたも退職します。そして無茶というか、無謀というか、一転して代議士を目指す事になりました。周りが止めると思っていたかをくくっていたら本当に辞めてしまったと、流石に奥さんもおびつくりなさっていたそうです。

出身地の広島から四一歳の時に初めて立候補。昭和五四年、四二歳で初当選。以来六期一五年間、国政の場で活躍し、このたび村山内閣のもとで大臣に就任しました。



亀井静香氏といずみ会幹部の記念撮影。山田事務局長の姿も